

恐怖の報酬

「気持ち悪さ」の向こうに見えるもの

哲学者 内山節

いま世界に蔓延している新型コロナウイルスについて、現在まとまった原稿を執筆するのは不可能に近い。これからのように展開していくのかもわからないし、これまでの経緯がどのようなものだったのかも、正確にはわからない。おそらくこの問題を語るには、これから単位の時間が必要になるのだろう。ゆえにこの原稿も、現時点での覚え書きのようなものである。

新型コロナウイルス問題に対しては、ほとんどの人が同じような感覚をもっていることだろう。その感覚は、不安というより気持ち悪さといったほうがいい。その気持ち悪さはふたつのことからきている。ひとつはコロナウイルス自体がよくわからないこと、もうひ

つはこのウイルス感染とともに展開している私たちの社会の気持ち悪さである。

正体不明のウイルスの気持ち悪さ

第一の点についていえば、新型コロナウイルスがどのようにして、なぜいま発生したのかもよくわからない。一応中国の武漢あたりで野生動物を食べた人から感染がはじまったということになっているが、実際にはさまざまな異説もある。仮にそうだと中国では遙か昔からさまざまな野生動物が食べられており、なぜいま人から人に感染するウイルスに変異したのかは謎である。さらにどのように感染していくのかも完全にはわかっていない。これも一応は飛沫感染と接触

感染ということになっているが、この広がり方をみると空気感染もありそうだし、われわれが気づいていない感染の仕方も存在するのかもしれない。

インフルエンザウイルスなら、湿度と気温が高くなれば力を失ってくるが、コロナウイルスにそれが当てはまるのかもわからない。仮に気温や湿度は関係ないとすれば、自然に感染拡大が終息することもなさそうだし、終息があるとすればほとんどの人が感染し、抗体をもつようになるのを待たなければいけないのかもしれない。もちろんワクチンによって抗体をもたせるという方法もあるが、インフルエンザワクチンがそうであるように、ワクチンがどれほどの効果があるのかも不明である。

なぜ重症化する人と、本人も感染に気がつかないほどに軽度の人がいるのかもわからないし、ウイルスは突然変異を起こしやすいということも頭に入れば、素早い変異がくりかえされて、さまざまなコロナウイルス感染が発生していく可能性もないとはいえない。現在でも、たとえばイタリアなどでは死亡率の高いウイルスへの変異が起こったのではないかと疑っている人もいる。

要するに新型コロナウイルスの性格もその正体も、現状ではよくわからないのである。わからないということが、このウイルスの気持ち悪さを生みだす。

真実は伝えられているのか

だが、このことだけが現在の気持ち悪さの原因なのかといえば、それだけではないだろう。もうひとつ、コロナウイルスの蔓延とともに展開している現代社会の気持ち悪さがある。

たとえば、インフルエンザなどと違って、世界はなぜこれほどあわてているのだろうか、という疑問がある。インフルエンザでは、日本は毎年1000人から5000人くらいが亡くなっているし、アメリカではこの1年間に5万人くらいが亡くなった。しかしインフルエンザでは非常事態宣言のようなことはしていない。ここから推測されることは、何かを隠しながら各国が対策をすすめているのではないかと疑いである。強引な推測をすればコロナウイルスがきわめて悪質なもので、治癒した後もさまざまな疾病をもたらすとか、このウイルスが人工的につくられたもので自然的な制御が難しいというような、各国が焦らなければ

日本社会の失敗の構造

「未来の失敗への想像力」が欠落している

神戸女学院大学名誉教授／哲学 内田樹

コロナ禍は同一問題に同時に取り組む希有の例

すでにあちこちで書いてきたことだが、コロナウイルス禍は「センター入試」のようなものだと思う。世界中の国が、同一の問題を前にして、同時に解答を始める。正解は誰も知らない。できることは「過去の失敗例」と「過去の成功例」を精査し、同じ失敗を繰り返さない、成功した事例を模倣する、それだけである。同時に解答を始めた受験生たちの中で、「これで解けた！」と教えてくれるところがあれば、それを真似すればよい。危機管理と言っても、原理はそれほど複雑ではない。

つてのアメリカは、日本にとってのそれらとは「違う国」である。「中国／フィリピンに出来たことがなぜ日本にできないのだ」と言って日本政府の外交能力の低さを論ずることはできない（したいが）。

だが、コロナ禍は違う。ここでは「……に出来たことがなぜ日本にはできないのだ」という文型で日本政府のパフォーマンスを査定することができる。というのも、コロナ禍はすべての国が「よい、どん」で課された同じ問題だからである。今回は、その取り組みを通じて、それぞれの国の「正味の国力」がはっきりと可視化された。そして、日本がこういう危機に際して、どの程度危機対応能力があるのか（というより「ないのか」）が世界に開示された。これについては「国情が違うのだから、他の国と比較されても困る」というエクスキューズは通らない。医療資源に乏しい最貧国であるとか、内戦中で統治機構が機能していないとかいうならともかく、GDP世界第三位の経済大国であり、戦争も内戦もなく、テロにも怯えることなく穏やかに統治されている先進国で、十分な感染症対策を行うだけの原資も時間もありませんながら、感染症対策においてここまで列国に後れを取ったことについて、

国難的事態というのは国ごとに違う。日本が経験している困難さとまったく同じ困難さに遭遇している国はふつうは存在しない。日本は北方領土問題や沖縄の米軍基地問題で苦しんでいるが、これらの難題について、「日本政府は最善を尽くしており、現状は望み得る最高の達成である」と政府が主張した場合でも、合理的な論拠に基づいてこれに反論することは難しい（というか、できない）。日本とまったく同じ領土問題を抱えていて、それを別の仕方で解決した事例が他に存在しないからである。

中国は胡錦濤時代にロシアとの領土問題にけりを付けたし、フィリピンは憲法を改定して駐留米軍を追い出したが、中国にとってのロシアと、フィリピンにと政府には説明責任がある。

日本政府は一貫して「状況を完全にハンドルしており、最適な対応を取っている」と言い張り続けるだろうし、御用メディアや御用学者は「日本の大成功」を言祝ぐかも知れないが、海外から「日本に学べ」という声が出てこない限り、「日本は失敗した」ということである。

この原稿を書いているのは4月のはじめであるけれども、この本が出る頃までに日本が奇跡的な逆転劇を演じてみせて、日本が感染症対策の先進国として高い評価を得ている可能性は限りなくゼロに近い。

「未来の失敗を想像する」習慣の欠落

もちろん、この本が出た時点でも、政府は「できる限りのことはやったのです」と言い張るだろうし、政権支持者は「がんばったんだからいいじゃないか。責任を問うとか、そういう固いことは言うなよ」と言っていて問題を看過しようとするだろう。日本社会には、結果がどれほど悲惨でも、「でも、精一杯がんばったんです」と言えば責任を取らずに済むという独特の「甘え」の文化がある。

「病気はまだ、継続中です」

分割／連帯を生み出すために

明治学院大学教授／文化人類学 猪瀬浩平

匿名化される身体と経験

新型コロナウイルス感染拡大のなかで、世間で語られる言葉に、自分自身が語る言葉に対してずっと違和感があった。それが何なのか言葉にできなかったのだが3月中旬のある日、知り合いの畑にジャガイモ植え付けを手伝って帰ってきた。畑から車にのって、私よりも三十歳年上で、海外経験の長いその人の若い頃の話聞きながら帰った。渋滞のおかげで、話をじっくり聞くことができたが、コロナウイルスの話はしなかった。家について、晩飯を食べながら、私は感染拡大の不安が高まるなかで忘れていたことに気づいた。個人の経験は、今日の前におきていることだけでは

なく、この世界の歴史と様々な固有名に結びついている。

コロナウイルスによって、私の体調はたとえ健康であったとしても、なかったとしても、この世界的な「非常事態」に紐づけられて、私個人の経験ではなくなる。もしコロナウイルスに感染したとしたら、私は匿名化され、しかしその行動履歴だけは遠慮もなくトレースされて世間にさらされる。

コロナウイルスで亡くなった人も、ただコロナウイルスに感染して亡くなったと、それに紐づけられる来歴だけが語られ、その人がどういう人柄だったのか、どういう人生を送ってきたのか、想像する手掛かりは与えられない。

私は、そのことを恐れている。私の身体も、私の経験も、今は私のものではないように感じている。

であるのだとしたら、今必要なのは、私の身体を、私の経験を如何に取り戻すのかということであり、他者の身体を、他者の経験を如何に生々しく感じる事なのだ。

「パンデミック」や、「緊急事態宣言」「ロックダウン」「大暴落／恐慌」「オリンピックの延期や中止」という大きな言葉ではない。もちろんそういう言葉によって私たちが管理され、なにかを奪われているなかで、しかし個人的なこと、些細なこと、間抜けなこと、かけがえのないことを自分にも、他者にも大切にできるのが問われている。

自宅待機できない側コトナリ

3月18日、愛知県の男性が入院先の医療機関で亡くなった。男性は、3月4日にPCR検査で陽性と判定されていた。愛知県は自宅待機の指導を行ったが、男性はその日の夜に、自分の暮らす街の飲食店を訪れ、「ウイルスをばらまいてやる」と話した。飲食店は営業自粛を余儀なくされ、また従業員にも感染者が出

た。テレビやインターネットでは、「他人に迷惑をかける」その人の行動に強い非難の声があがった。

報道される情報に基づけば、彼は自業自得と断罪されて当然とも考えられる。しかし、もともと重い持病を持っていた彼が、なぜ自宅待機の要請を無視して、それでも飲食店に行こうとしたのか、私はその理由が気になる。というのは、私の周りにいる人たち——障害のある人も、ない人もいる——のことを想像しても、自宅待機の指導を受けたとしても、それだけで自宅に留まれる人ばかりではないと思うからだ。

3月30日の小池百合子都知事の会見では、若者に対してはカラオケやライブハウス、中高年についてはバーやナイトクラブに行くのを控えることが呼びかけられた。客となる個人の自粛を求め、店を開けざるを得ない側の休業補償がなされていない問題については、その重要性を確認したうえでひとまず置こう。

私がここで考えたいのは、自粛要請されたとして、それらの場所に行ってしまう人のことだ。たとえば家族の介護を一人で続けている人が、それを電話で打ち明ける友人がいらない、あるいはSNSに書き込む方法をもっていなければ、その人は話を聞いてくれる人の

新型コロナウイルス禍は行き過ぎた グローバル資本主義への警告

経済アナリスト 森永卓郎

新型コロナウイルスが猛威を振るっている。武漢で発生した新型コロナウイルスが、初めて世界に知らされたのは2019年12月30日のことだった。それからわずか3ヵ月あまりで世界の感染者数が百万人を超える事態に陥り、世界各地で外出禁止令が敷かれるなど戦後一度も経験していない苦境に追い込まれている。

ただ、一步引いてみると、私には、今回の新型コロナウイルスの感染拡大が引き起こした惨禍は、行き過ぎたグローバル資本主義への警告ではないかと思えるのだ。

グローバル化の行き過ぎが コロナ禍を拡大した

1989年のベルリンの壁の崩壊以降、世界中がグ

第二の理由は、サプライチェーンの問題だ。グローバル資本主義の大原則は、世界で最もコストの安いところから部材を大量調達することだ。しかし、それが思わぬ障害をもたらした。中国製の部品が調達できずに国内自動車工場がストップしたのを皮切りに、電動アシスト自転車などの製造が部品不足で困難になり、最近では中国製のシステムキッチンやトイレが調達できずに工務店が顧客に建築した住宅を引き渡せない事態も生じている。国民を悩ませているマスク不足の問題も、生産の8割近くを、中国を中心とする海外に依存してきたことが原因だ。

新型コロナウイルスがなくても バブルははじけていた

第三の理由は、バブルの崩壊だ。ニューヨークダウは2月12日の2万9551ドルをピークに3割ほど下がった。世界の株式市場も同様の動きを見せている。多くの人が、これは新型コロナウイルスの影響だと考えているが、本質はそうではない。例えば、ノーベル経済学賞を受賞したシラー教授が開発したシラーPERという株価の割高指標がある。この指標が25倍を超える状態

ローバル資本主義に向かって邁進した。その結果、所得格差が爆発的に拡大し、地球環境が破壊されていったが、新型コロナウイルスがもたらした惨禍も、グローバル資本主義がなければ、これほどひどいことにならなかったと思われる。

第一の理由は、国際間移動の爆発的な拡大だ。例えば、中国人海外旅行者数は2005年には3000万人程度だった。それが2018年には1億5000万人と、5倍に増えている。もし中国からの出国者が、グローバル資本主義が広がる前と同じ程度だったら、こんなに急速な感染拡大はなかっただろうし、新型コロナウイルスが武漢の風土病で終わっていた可能性さえあるのだと思う。

が一定期間続くと、バブルが崩壊する。ITバブルの時は79ヵ月、リーマン・ショック前のバブルのときは52ヵ月でバブルが崩壊した。そして今回は69ヵ月だった。つまり、新型コロナウイルスが発生しなくても、株価の暴落は生じたのだ。新型コロナウイルスはバブル崩壊のきっかけを作り、そして今後、崩壊後の谷をさらに深くしていく効果を持つのだ。

バブルの発生と崩壊は資本主義の宿命だ。17世紀のオランダでチューリップバブルが発生して以降、世界は大きなものだけで70回以上のバブルを経験してきた。なぜバブルが生じるのかというと、人々が働いて稼ぐのではなく、カネにカネを稼がせようとするからだ。バブルの対象が値上がりし、儲かる人が出ると、それをみて買う人が増えるから、本来の価格を上回って、さらに値上がりする。その仕組みは富裕層にとってもない富をもたらす。いまや、世界の富裕層で、働いている人はほとんどいない。そのバブルを新型コロナウイルスは、破壊したのだ。

暴落は、株にとどまらず、原油、仮想通貨、低格付けの債券など、あらゆる金融商品に広がっている。来年には都心の商業地も暴落に見舞われるだろう。富裕